

高知県感染症発生動向調査(週報)

2011年第31週[8月1日～8月7日]

高知県衛生研究所 高知県感染症情報センター
 TEL:088-821-4961 FAX:088-825-2869
<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/>
 E-mail:kansen@ken4.pref.kochi.jp

県内情報

○ 患者情報総評

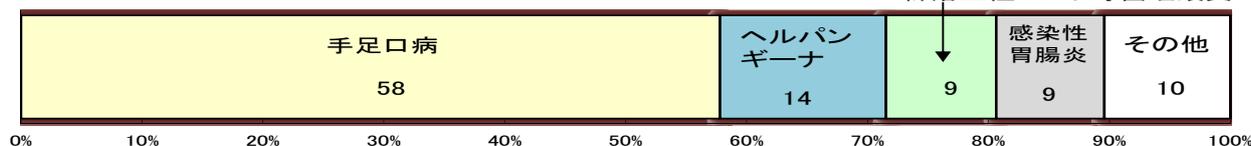
警報発令疾患：手足口病

注意報発令疾患：ヘルパンギーナ

- ・ 晴れの日が多く気温の高い日が続いており、熱中症には十分注意が必要である。
- ・ **手足口病** (幡多：警報→警報，中央西：警報→警報，高幡：警報→警報，高知市：警報→警報，安芸：注意報→警報，中央東：注意報→注意報) は全ての地域で増加し，総数はさらに増加した。
- ・ **ヘルパンギーナ** (幡多：警報→警報，安芸：注意報→注意報，中央西：警報→注意報，高幡：注意報) は高幡と安芸で増加したがその他の地域で減少し，総数は再び減少した。
- ・ **A群溶血性レンサ球菌咽頭炎** (中央東：注意報→警報) は中央東と高知市で増加し，総数は引き続き増加した。
- ・ **感染性胃腸炎** は例年通り低いレベルで推移しているが，今週は *Campylobacter jejuni* が1件検出された。夏季は食中毒菌の感染に注意が必要である。

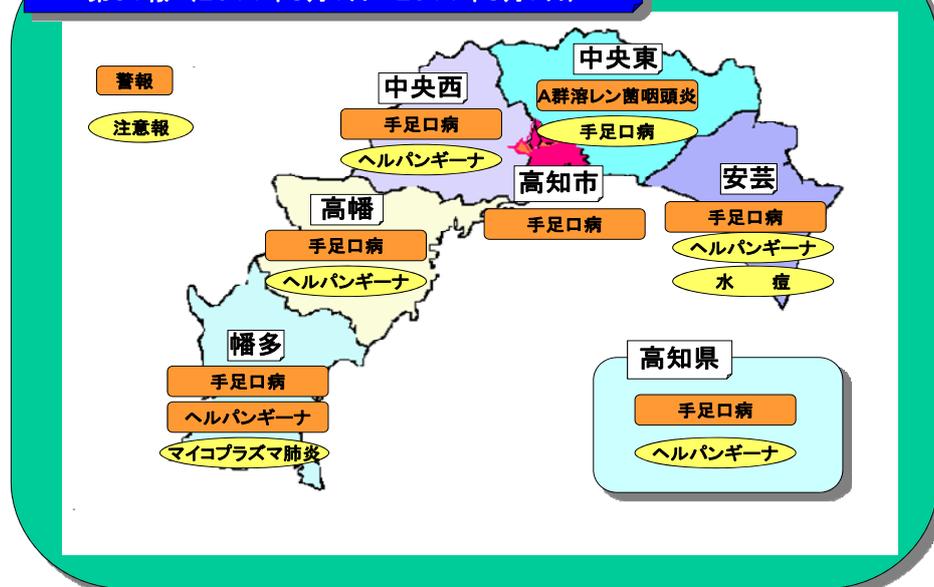
上位疾患構成図

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



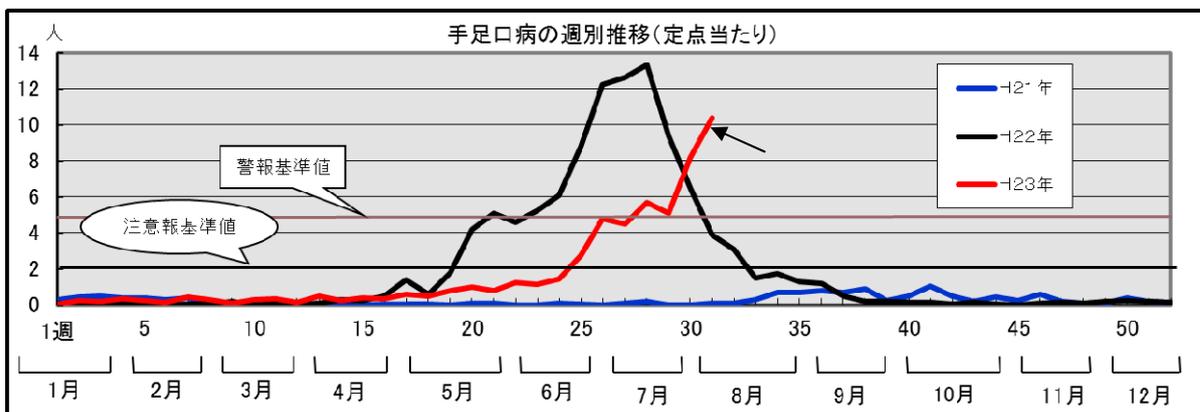
地域別感染症注意報・警報発生状況

第31報 (2011年8月1日～2011年8月7日)



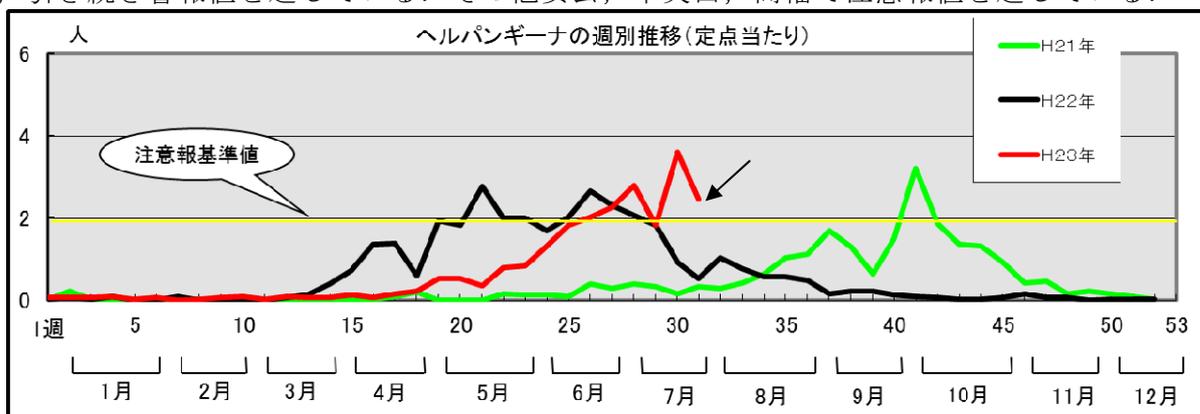
手足口病：今週10.37 (注意報値：2.00 警報値：5.00)

総数は引き続き増加し，前週の約1.3倍となった。地域毎にみると幡多で24.40，次いで中央西で11.67，高幡で11.00と多く，中央東を除く地域で警報値を超している。年齢別にみると1,2歳を中心に1～4歳で8割を占めている。過去10年間では昨年仅次于大流行となっており今後も警戒が必要である。



ヘルパンギーナ：今週 2.47 （注意報値：2.00 警報値：4.00）

再び減少に転じ、総数は前週の約7割となった。地域毎にみると幡多で最も多く定点当たり8.20で、引き続き警報値を超過している。その他安芸、中央西、高幡で注意報値を超過している。



検査情報

受付週	臨床診断名	患者	地域	ウイルス、細菌の検出状況
28	手足口病	5歳 男	高知市	Parechovirus NT
30	新生児発熱	0ヵ月 女	高知市	Parechovirus NT※
30	新生児発熱	0ヵ月 女	高知市	Parechovirus NT※
30	新生児発熱	0ヵ月 女	高知市	Parechovirus NT※
31	感染性胃腸炎	5歳 女	中央東	<i>Campylobacter jejuni</i>

※の3例は同一人物

○ **全数報告の感染症情報**

2類感染症：結核 9例（0～4歳女，90代女）《中央東》（70，100代女，30，80代男）《高知市》（80代女）《幡多》（60，90代男）《中央西》（今年108例）

○ **定点からの地域ホット情報**

幡多：

《幡多けんみん病院小児科》：アデノウイルス陽性 1例（15歳女）
 《さたけ小児科》：膿痂疹 2例（1歳女）
 《渭南病院小児科》：アデノウイルス咽頭炎 1例（1歳女）

高幡：

《もりはた小児科》：手足口病の流行が続く（爪が剥がれた例が2例あり） 流行性耳下腺炎の1例は県外
 アデノウイルス感染症（扁桃炎） 4例（1～5歳）

中央西：

《石黒小児科》：带状疱疹 1例（6歳女） 単純ヘルペス 1例（12歳女）
 《日高クリニック》：带状疱疹 1例（77歳男） 感染性胃腸炎の1例は県外

高知市：

《けら小児科・アレルギー科》：咽頭結膜熱の2例はアデノウイルス陽性
 百日咳の1例（9歳女）は東浜株160倍，山口株1280倍，DPT4回済み
 カンピロバクター腸炎 1例（12歳男）

中央東：

《吉本小児科皮膚科》：カンピロバクター腸炎 1例（5歳女）

《あけぼの小児クリニック》：マイコプラズマ肺炎 1例（5歳男）

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は発熱のみや嘔吐、蕁麻疹を伴う例など、典型的な症状を呈さない場合でも迅速キットで陽性となり注意が必要である。

《早明浦病院小児科》：ヘルペス性歯肉口内炎 1例（1歳女）

全国情報第29週（7/18～7/24）（<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>）

2類感染症：結核345例

3類感染症：細菌性赤痢5例、腸管出血性大腸菌感染症116例（有症者74例、うちHUS 3例）、腸チフス1例、パラチフス1例

4類感染症：A型肝炎1例、マラリア1例、レジオネラ症18例

5類感染症：アメーバ赤痢8例、ウイルス性肝炎（B型）1例、急性脳炎1例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症3例、後天性免疫不全症候群10例（AIDS 2例、無症候7例、その他1例）、ジアルジア症2例、梅毒10例、風しん2例、麻しん5例

報告遅れ：デング熱1例、急性脳炎3例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症3例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症1例

◆風しん2011年第1～29週（2011年7月27日現在）

風しんは、2008年1月1日から、それまでの5類の定点把握疾患から全数把握疾患に変更された。2008～2010年の間、風しんの報告数は減少傾向であり、2010年の年間報告数は90例と、100例を下回った。

2011年第1～29週の風しんの報告は、37都道府県からあり累積報告数は262例であった。累積報告数は、第7週に14例となり昨年同週の11例を上回った。その後、主に職場内での成人の間での集団発生と思われる報告が複数の自治体から断続的にあり、第24週には累積報告数が215例となった。これは、全数把握疾患となった以降で最も多くの報告数があった2008年の同週までの累積報告数208例を上回り、以後過去3年間で最も多い値で推移している。

第1～29週の累積報告数を都道府県別にみると、神奈川県53例、大阪府40例、福岡県38例、東京都22例、北海道18例、広島県10例の順に多かった。さらに都道府県別に人口100万人当たり報告数では、最も多いのは福岡県の7.52であり、次いで神奈川県5.93、大阪府4.54、広島県3.49、北海道3.27、茨城県3.04であった。

性別では男性199例（76.0%）、女性63例（24.0%）と、男性は女性の3倍を超える報告数であった。平均年齢（標準偏差）は男性32.0（±12.7）歳、女性24.4歳（±15.0歳）であり、有意に男性のほうが高かった（t検定、 $p < 0.01$ ）。年齢中央値も同様の値だった。年齢群別では、男性では30代60例（30.2%）、20代57例（28.6%）、40代39例（19.6%）の順に多く、これら20～40代の報告数が全体の78.4%を占め、10歳未満は8例（4.0%）のみであった。女性では20代21例（33.3%）、10代および10歳未満各11例（17.5%）、30代10例（15.9%）の順であった。

男女別に、接種歴別・年齢別累積報告数をみると、男性では20歳以上が大半（86.4%）であり、またそのほとんどが、接種歴がないか不明の症例であった。男性全体での接種歴は1回接種あり12例（6.0%）、2回接種あり1例（0.5%）、接種歴なし46例（23.1%）、接種歴不明140例（70.4%）であり、女性全体では1回接種あり10例（15.9%）、2回接種あり3例（4.8%）、接種歴なし15例（23.8%）、接種歴不明35例（55.6%）であった。1回以上の接種歴のある割合は男性のほうが有意に低かった（ χ^2 検定、 $p < 0.01$ ）。

累積報告数の病型別割合は、男女全体では検査診断例が75.2%（197例）であったが、男女別にみると、男性で検査診断例が79.4%（158例）であるのに対して、女性では61.9%（39例）で有意に低かった（ χ^2 検定、 $p < 0.01$ ）。この差は、検査診断された男性との疫学的リンクが認められた女性患者が多かった可能性があるが、感染症発生動向調査上の報告内容からは把握できなかった。今後妊娠を希望する女性にとって、風しんの正確な罹患歴は非常に重要な情報である。検査診断された患者からの感染が明らかでない場合などには、特に妊娠出産年齢の女性においては正確に検査診断されることが望まれる。

先天性風しん症候群（congenital rubella syndrome：CRS）は、風しんウイルスが胎内感染することによって生ずる疾患である。先天性風しん症候群は1999年4月から5類の全数把握疾患であり、1999年0例、2000～2003年各1例、2004年10例、2005年2例、2006～2008年各0例、2009年2例、2010年0例であり、2011年はこれまでに1例報告されている。2009年の2症例のうち1例は海外感染例であったが、2011年の1例も海外の実家へ帰省していた妊婦が、その帰省中に感染した症例だった。2004年は複数の自治体で風しんの地域流行があり、全国の罹患数推計値は3.9万人に上り、その結果としてCRSも最も多く報告されたものと思われる。しかしこの時には、2003年、2004年に明らかな地域流行が認められなかった地域においてもCRSの報告があった。また、明らかな風しんの地域流行がなく、散発例が大半を占めた2009年（累積報告数147例）においても国内感染によるCRSの報告があったことも強調しておきたい。このように、国内外の地域流行の有無に関わらず、妊婦の風しん感染とそれによるCRS発生のリスクに注意が必要といえる。

定点名	医療圏 疾病名	安芸 医療圏	中央医療圏			高幡 医療圏	幡多 医療圏	計	前週	全国(30週)	高知県(31週末累計) H23/1/3~H23/8/7
			中央東	高知市	中央西						
内科・小児科	インフルエンザ									114 (0.02)	12,335 (256.98)
小児科	咽頭結膜熱		1	4	1	1		7 (0.23)	5 (0.17)	1,958 (0.63)	199 (6.63)
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1	31	13	1	3		49 (1.63)	40 (1.33)	2,671 (0.85)	1,679 (55.97)
	感染性胃腸炎	2	11	26	5		4	48 (1.60)	44 (1.47)	8,770 (2.80)	6,213 (207.10)
	水痘	4	7	12			1	24 (0.80)	15 (0.50)	2,566 (0.82)	1,324 (44.13)
	手足口病	12	31	89	35	22	122	311 (10.37)	245 (8.17)	25,636 (8.19)	1,585 (52.83)
	伝染性紅斑		3	2			2	7 (0.23)	13 (0.43)	1,902 (0.61)	273 (9.10)
	突発性発疹	1	5	7			2	15 (0.50)	15 (0.50)	2,108 (0.67)	448 (14.93)
	百日咳			1				1 (0.03)		113 (0.04)	12 (0.40)
	ヘルパンギーナ	7	2	11	9	4	41	74 (2.47)	108 (3.60)	13,941 (4.45)	681 (22.70)
	流行性耳下腺炎						1	1 (0.03)	6 (0.20)	3,010 (0.96)	232 (7.73)
	RSウイルス感染症									678 (0.22)	557 (18.57)
眼科	急性出血性結膜炎									276 (0.41)	(0.00)
	流行性角結膜炎								1 (0.33)	531 (0.78)	31 (10.33)
基幹	細菌性髄膜炎									10 (0.02)	2 (0.29)
	無菌性髄膜炎									39 (0.08)	13 (1.86)
	マイコプラズマ肺炎						1	1 (0.14)	1 (0.14)	309 (0.67)	60 (8.57)
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)								1 (0.14)	11 (0.02)	7 (1.00)
計 (小児科定点当たり人数)	27 (13.50)	91 (13.00)	165 (15.00)	51 (17.00)	33 (16.50)	171 (34.00)	538 (17.90)				
前週 (小児科定点当たり人数)	17 (8.50)	71 (10.14)	135 (12.00)	43 (14.33)	26 (13.00)	202 (40.40)		494 (16.37)	64,643	25,651 (697.08)	

定点当たり

第31週

定点名	医療圏 疾病名	安芸 医療圏	中央医療圏			高幡 医療圏	幡多 医療圏	計	前週	全国(30週)
			中央東	高知市	中央西					
内科・小児科	インフルエンザ									0.02
小児科	咽頭結膜熱		0.14	0.36	0.33	0.50		0.23	0.17	0.63
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.50	4.43	1.18	0.33	1.50		1.63	1.33	0.85
	感染性胃腸炎	1.00	1.57	2.36	1.67		0.80	1.60	1.47	2.80
	水痘	2.00	1.00	1.09			0.20	0.80	0.50	0.82
	手足口病	6.00	4.43	8.09	11.67	11.00	24.40	10.37	8.17	8.19
	伝染性紅斑		0.43	0.18			0.40	0.23	0.43	0.61
	突発性発疹	0.50	0.71	0.64		1.00		0.50	0.50	0.67
	百日咳			0.09				0.03		0.04
	ヘルパンギーナ	3.50	0.29	1.00	3.00	2.00	8.20	2.47	3.60	4.45
	流行性耳下腺炎						0.50	0.03	0.20	0.96
	RSウイルス感染症									0.22
眼科	急性出血性結膜炎									0.41
	流行性角結膜炎								0.33	0.78
基幹	細菌性髄膜炎									0.02
	無菌性髄膜炎									0.08
	マイコプラズマ肺炎						1.00	0.14	0.14	
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)								0.14	0.02
計 (小児科定点当たり人数)	13.50	13.00	15.00	17.00	16.50	34.00	17.90			
前週 (小児科定点当たり人数)	8.50	10.14	12.00	14.33	13.00	40.40		16.37		

